

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県 蓮田市

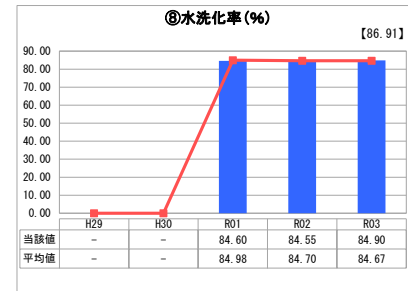
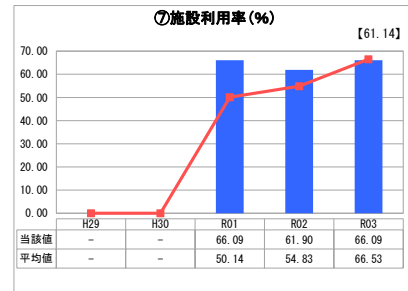
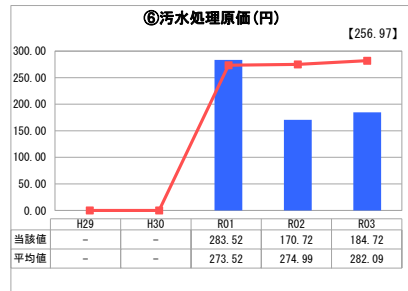
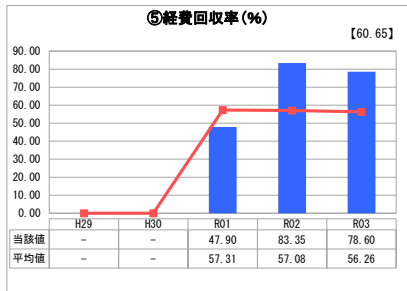
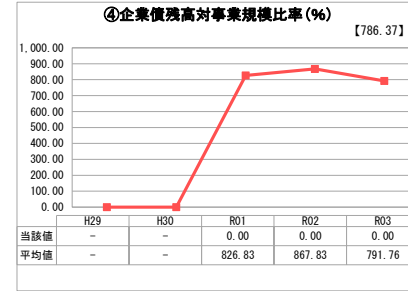
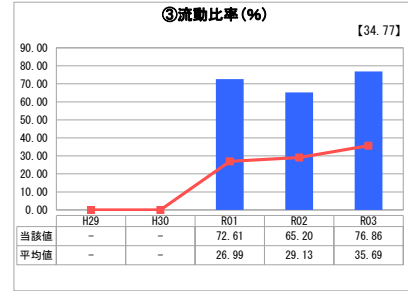
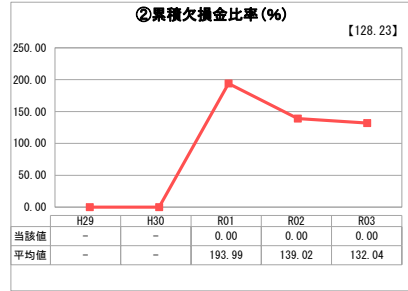
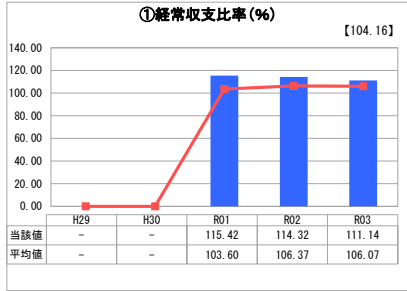
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	78.47	5.93	100.00	3,850

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
61,563	27.28	2,256.71
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,643	1.33	2,739.10

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当市の農業集落排水事業は、上平野処理区（平成9年供用開始）、高虫処理区（平成10年供用開始）、駒崎・井沼処理区（平成14年供用開始）、税金・貝家処理区（平成20年供用開始）の4つの処理区で構成されています。

排水処理施設の使用料収入は合わせて約4千4百50万円（前年度と概ね同額）、使用料単価は145.2円（前年度比2.9円増）となりました。利用人数が年々減少傾向にあり、今後も使用料収入も減少することが考えられるため、施設の更新等が増加していくことを踏まえ、適切な経営改善に努める必要があります。

①経常収支比率は100%を超えています。経費回収率は100%を下回っているため、使用料収入で汚水処理費を賄い切れていない状況です。そのため、使用料の見直しや検討や経営の効率化及び経費削減に努める必要があります。

②累積欠損金は発生していませんが、一般会計からの繰入額を抑えられるように経営改善に努めます。

③流動比率は、前年度と比較すると11.66ポイント増となりましたが、100%を下回りました。今後も下水道の整備を計画に進めると共に現金の確保に努めます。

④該当しません。

⑤経費回収率は、前年度と比較僅かに減少しましたが、類似団体平均を上回りました。100%を目指し経営の効率化に努めます。

⑥汚水処理原価は前年度比14円増になりましたが、類似団体平均を大きく下回りました。使用料の見直しや経費削減、経営改善に向け対策を講じる必要があります。

⑦施設利用率は前年度比4.19ポイント増となり、類似団体平均と概ね同率となりました。今後も適切な施設規模を維持する必要があります。

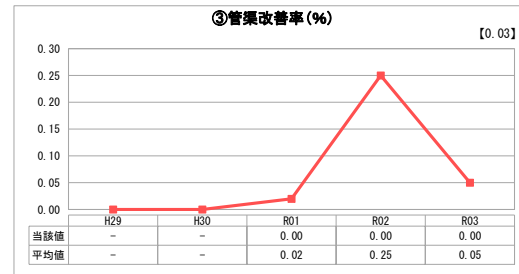
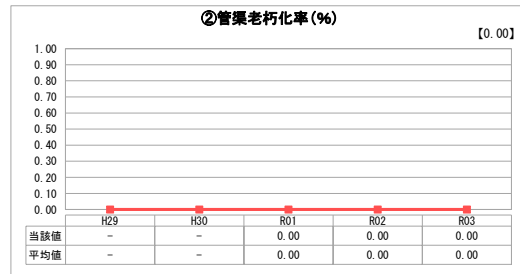
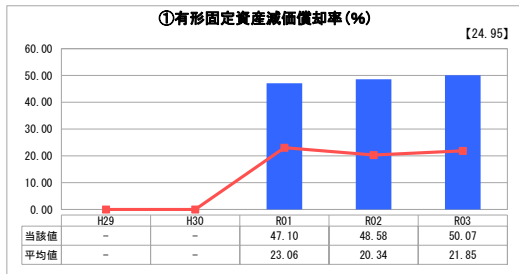
⑧水洗化率は前年及び類似団体平均とほぼ同等値となっています。安定した使用料収入を得るため、水洗化率100%を目指し、向上させる取組みを行います。

### 2. 老朽化の状況について

4つの処理場のうち、上平野処理区や高虫処理区は供用開始から20年が経過しました。

現状では法定耐用年数が50年を経過した管渠はありますが、集落排水施設の整備等、今後の大量更新期を迎えるためのストックマネジメント計画に基づく施設の更新に取組む必要があります。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

これからの農業集落排水事業は、施設の老朽化に伴う今後の更新や防災、減災対策に取組むため安定した事業運営を行っていく必要があります。今後の利用者減少に伴う収入減の見込み等、経営環境は厳しさを増しますが、経営の効率化及び健全化を目指す必要があります。

また、処理施設の処理能力に対して実処理量が低い処理区については、必要に応じて事業内容の見直しを行い、適切な施設規模を維持する必要があります。

農業集落排水施設は、公共下水道全体計画地域と隣接した区域に整備されており、今後、改築更新に多大な費用を要することが予想されています。そのため、施設の統廃合や将来的に公共下水道への接続も視野に入れる必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。